

令和元年度 校内研究計画

I 研究主題 分かる喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成

～算数科における児童の振り返りを大切にした授業づくりを通して～

II 主題設定の理由

1 学校教育目標の具現化から

本校では、「自ら学び 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」を教育目標に掲げ、「思いやりのある子ども（徳）」「進んで学ぶ子ども（知）」「体をきたえる子ども（体）」をめざし日々の教育活動を行っている。

本主題は、算数科の学習への関心意欲を高め、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業を通して、「進んで学ぶ 子ども（知）」を具現化しようとするものである。

2 今日的な課題から

国際化や情報化の進展、価値観の多様化など、大きく変化しつつある社会において、児童が「夢や志」を持った一人の人間として、力強く生きていくためには、基礎的・基本的な知識・技能や、主体的に判断し行動する資質・能力を一層確実に身に付けていかなければならない。そのためには「確かな学力」を身に付けることが重要である。

次期学習指導要領においては、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、「確かな学力」を育成することが、改訂のポイントとして示されている。

新学習指導要領における算数科の目標は次の通りである。

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のように育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

このように、今、学校教育では基礎的・基本的な知識・技能の定着とそれらを活用する力を身に付ける児童の育成が望まれている。また、数学的活動を通して目的意識をもち、主体的に学習に取り組ませる指導の在り方が求められている。

そこで、算数科における基礎的・基本的な知識・技能の定着をベースとし、振り返りを大切にした授業を通して、児童に自信をもたせ、わかる喜びを感じ自ら学ぶ児童を育てたいと考え、本研究主題を設定した。1年次に当たる今年度は、これまで国語科で培ってきた取組を土台としながら、「分かった」「できた」を実感し主体的に学びを深めることのできる指導の手立てを探っていききたい。

3 児童の実態から

本校の児童の多くは明るく素直で、学習活動や行事等の課題に対して一生懸命に取り組む。

平成30年12月に行った学力調査では、個々の学力のばらつきがあり、算数科は、全観点とも全国平均正答率より下回っており、特に「知識・理解」が低かった。

児童の日々の学習状況においても、1月から始めたスキルタイムの成果は出始め計算力はついてきているものの、基礎・基本の習熟や文章問題の解決に課題がある。また、児童の生活と算数の学習内容との結び付きが弱く、学習意欲の高まりや学習内容の定着に問題が見られる。

このことから、児童一人一人の実態を把握し、振り返り活動を工夫して授業を展開することは、児童の自己肯定感を高め、「分かる喜び」を感じながら確かな学力を身に付けさせることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究主題・副題のとらえ方

次の3点を共通理解の上、研究を進める。

(1) 「分かる」とは…

指導法の工夫を通して児童が以下のような状態になっていることと捉える。

- ① 「解けた」「分かった」「できた」という気持ちを持ち、学習内容を理解できたことへの達成感や成就感を味わいながら学習に取り組んでいる状態。
- ② 主体的に学習に参加し、自分の考えが認められたとう自信をもちながら学習に取り組んでいる状態。
- ③ 「やってみよう」「挑戦してみよう」と、新たな問題や課題に意欲的に取り組もうとしている状態。

(2) 「自ら学ぶ児童」の姿とは…

本校の目標とする「自ら学ぶ児童」の姿を以下のように捉える。

- ① 学ぶ意味を理解し、目的をもっている児童
- ② 学び方を知っている児童
- ③ 問い続け、考え続ける児童

(3) 「振り返り」とは…

- ① 今日の学習で学んだことやわかったことをまとめること。
- ② どのように考えたら答えを導き出せたか、その過程をたどること。
- ③ 方法を見つけたり、解き方が分かったりしたときのきっかけをおさえること。
- ④ 分からないことを認めること。また、何が分からないかをおさえること。

など、学んだ内容だけでなく、方法や着想についてまとめたり、適応問題を解いて実際に学んだことが使えたなどの実感をもったりすることも「振り返り」と捉える。

Ⅳ 研究目標

算数科において、学習のねらいを明確にし、児童一人一人を大事にした授業づくりを工夫することで、分かる喜びを感じ自ら学ぶ児童の育成を目指す。

V 目指す児童像

低学年部	中学年部	高学年部
・本時の目当てを理解して学習に取り組み、自分の言葉で振り返ったり、分かる喜びを感じたりできる児童。	・自分の目当てをもって学習に取り組み、考えた過程や答えを見つけたきっかけなどを自分の言葉で振り返ったり、分かる喜びを感じたりできる児童。	・自分の目当てをもって主体的に学習に取り組み、学びのプロセスを振り返ったり、分かる喜びを感じたりできる児童。

VI 研究の視点

以下の2点を研究の視点と捉え、算数の授業実践に取り組んでいくことによって、「『分かる喜び』を感じ、自ら学ぶ児童」を育成することができると考える。

○視点1 学びの足あとを確かめる振り返りの設定

〈主な手立て例〉・振り返りのさせ方（いつ・どの場面で・何に対して）

- ・評価・振り返りの生かし方
- ・自分の学びが見えるノート作り
- ・学習課題の精選と振り返りの仕方

○視点2 適用や活用につなげる指導過程の工夫

〈主な手立て例〉・問題把握から立式、自力解決までの時間配分の工夫

- ・問題把握の効率を考えたレディネス学習の取り組み
- ・問題把握の効率を考えた適用問題の与え方の工夫など

研究を支える側面

◎すべての授業で大切にしたいこと

- 学び方を鍛える
 - 話し方・聞き方 ペア・グループ学習 ハンドサイン
 - 日々の積み上げ みんなで分かっているという意識
- ノート指導・板書計画
 - 自分の学びを振り返ることができるノート作り
- 学級づくり
 - 何でも言える 間違いでも言える 互いの考えを認め合える
 - つぶやき・歓声のある学級
- 教材・教具の工夫
 - 感性に響く教材教具（算数・数学の文化を感じさせる）
- 考えることを楽しむ児童を育てる
 - どうして？不思議？

◎研究授業する上で押さえておきたいこと

- 価値のある問題作り（導入時）
- 児童の実態を考慮した問題作り（難易度）

- 考えを深める発問作り（発問の工夫）
- 学んだ良さの振り返り（いつ、どこで振り返らせるか）

学びの定着を図る学習環境の整備

- ◎毎日3分間のスキルタイムの実施（教頭先生に協力をもらう）
- ◎ノート指導の統一事項の整理
- ◎学習形態の工夫
- ◎スーパーノビールランド（SNL）の実施（学期末・学年末）
- ◎「新聞を読もう」の取組（週1回）
- ◎読書の推進（読み聞かせボランティア活動、白石市図書館からの読み聞かせ活動）

学びを支える家庭との連携

- ◎家庭学習の手引き付き下敷きの配布
- ◎毎日音読、宿題プリント、漢字ノートの丸付けとチェック
- ◎毎日の家の人への学習アウトプット
- ◎週末課題の実施（国語の読解問題・算数の文章問題）
- *「福岡小パワーアッププラン」のお便りを定期的に発行し、協力を依頼していく。

Ⅶ 研究の内容と進め方

（1）研究の基本方針

- 児童の意欲と確かな学力につながり、教師も実践力が高まる研究を目指す。
 - ・研究の視点に沿った具体的な手立ての有効性を、授業実践を通して検証していく。
 - ・児童の確かな学力の向上を意識し、日々の授業に力を入れ、実践を積み重ねていく。

（2）研究の内容と方法

①研究主題に関する理論的な研究

- ・文献や先行研究実践事例を調べ、多くの情報の中から研究につながるものを収集する。
- ・数学的活動について研修する。（2年次以降の研究につなげていく）

②研究主題に関する児童の実態調査

- ・意識調査、学力到達度診断（4月・12月）を行い、一人一人の変容を分析し、日々の授業に生かすようにする。

③研究授業の実践

- ・全学年1授業を提供する。（本年度は、授業実践を積み重ねていく。特別支援学級は、提供授業と位置付け、模擬授業や事後検討会は行わない。）
- ・学習指導案検討会は学年部で事前に行い、研究主任は授業者の提案を確認しておく。
- ・事前に学年部中心に模擬授業を行い、意見の交流を通して発問等の精度を上げる。
- ・学年部で授業記録（教師の発問や児童の反応などを文章化）を行い、検証に生かす。また、児童のノート・写真撮影を行い、検討会で活用する。
- ・事後検討会では、付箋紙を使ったKJ法により、視点に焦点を絞って話し合いを深める。

④研究授業後の児童の変容と評価

- ・実態調査や評価テストなどで把握する。また、その結果を基に研究の評価を行う。

⑤研究のまとめ

- ・授業実践記録を分析し、研究の成果と課題を明らかにして研究のまとめを行う。

(3) 運営について

①研究全体会（構成…全職員）

研究推進協議，理論研究，授業研究，実技研修などを行い，職員の共通理解を図り，研究の深まりを目指す場とする。

②研究推進委員会（構成…教頭，教務，研究主任，学年部主任，各専門部長）

研究を円滑に推進するために，研究計画，方向，理論などについての内容検討や連絡・調整，研究全体会の企画・運営にあたる。

③授業研究部（低学年部，中学年部，高学年部，特別支援部）

低学年部…◎佐藤咲 ○梅津 阿部日 近江

中学年部…◎小山 大谷 高橋律 加藤

高学年部…◎佐藤裕 高橋脩 熊谷 高橋達

特別支援部…◎佐藤裕 近江 佐藤咲

④専門部（学年部ごとに分担して所属する。）

学習習慣部…◎高橋脩 梅津 小山 高橋達

調査資料部…◎阿部日 大谷 佐藤裕 加藤

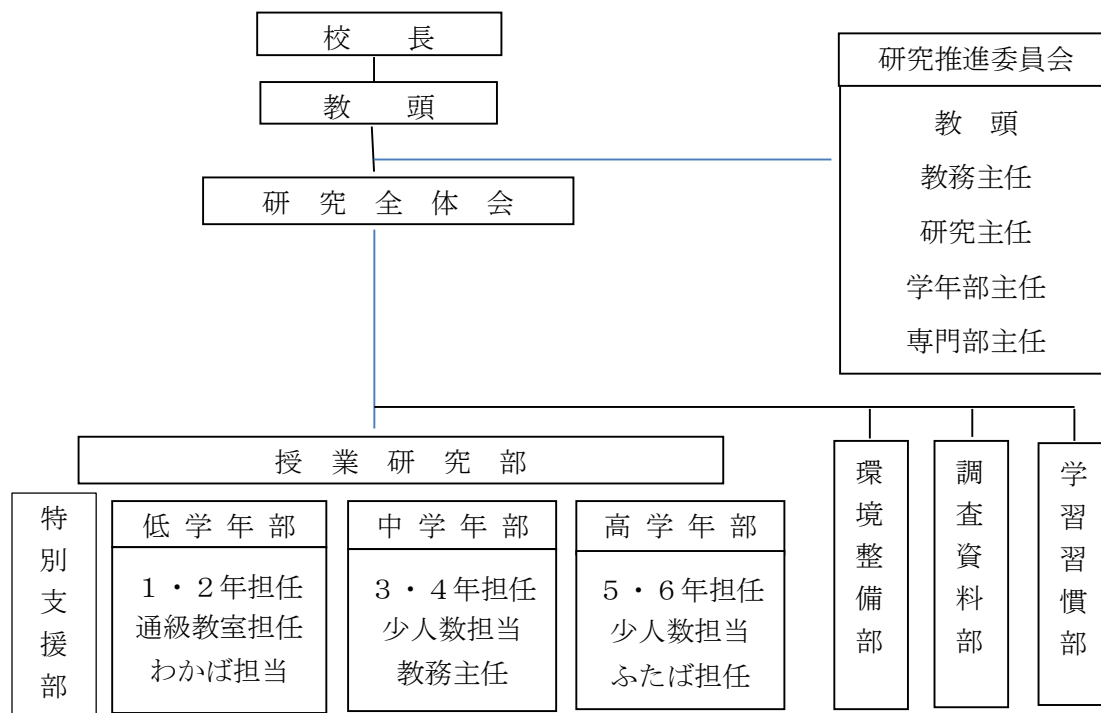
環境整備部…◎熊谷 近江 高橋律 佐藤咲

学習習慣部…スキルタイムの提案や「学習の約束」「ノート使い方」など，学習習慣の推進を図る。

調査資料部…児童の実態と変容を調査し，調査結果の集約と分析をする。学力検査の分析を行い，研究に役立てる。

環境整備部…「既習事項」「数学的活動」に関する資料収集や教室掲示などの提案，校内掲示の整理を行う。

Ⅷ 研究組織



Ⅸ 研究計画

1年次(平成31年)…研究主題・副題の決定, 研究計画・研究目標・視点の決定

・視点に基づく算数科での授業実践の積み上げ

「分かる喜びを感じ, 自ら学ぶ児童の育成」

～算数科における児童の振り返りを大切にした授業づくり～

2年次(令和2年)…研究主題・副題の決定, 研究計画・研究目標・視点の検討や修正

・視点に基づく算数科での授業実践の充実

「分かる喜びを感じ, 自ら学ぶ児童の育成」

～目的を明確にした数学的活動を取り入れた授業づくり～

3年次(令和3年)…研究主題・副題の決定, 研究計画・研究目標・視点の検討や修正, まとめ

・視点に基づく算数科での授業実践のまとめ

「分かる喜びを感じ, 自ら学ぶ児童の育成」

～算数の知識をもとに, 児童が考えることを楽しむ授業づくり～